リフレッシュロードR３４２

何もいらない、この風景と温かい日差し、そして木々を揺らしてくれる柔らかな風が少しあれば、それだけでいつしか大自然の中に身を置く自分に気づく、過ぎ去る車もやさしく迎えてくれ、つい道の渋滞さえ待ちわびたくなる、それがリフシュロード342…走るだけで幸せを感じられる癒しの道…そして、その先には湯けむりのお出迎え、そこが癒しの郷　須川高原

No.	登り（真湯ゲートから）	下り（須川ゲートから）	ポイント愛称	ポイント特徴

【1】2．1km手前　16．8km地点「のこぎり山」

前方景色　　後方景色

（「スノーシェルター」から800m）

※「健康の森」・「かみくら」入口付近から真湯方向正面の稜線を見ます

山（丘？）の稜線が、全てとんがって見える「針葉樹」で形作られ、まるでのこぎりの歯のような、なかなか見られない珍しい山の景色です。

【2】0．5km手前　15．1km地点「真湯野営場」巨樹の遊歩道

↑お楽しみ方ポイント
さあ「真湯ゲート」で車の距離メーターを　ゼロにしてスタートです

↑　「千年大けやき」

真湯ゲート手前の「野営場」にある遊歩道は巨樹の宝庫で、何故か変な形に伸びた「謎のイタヤカエデ」、巨大な山ぶどうのツルまきつく大きな「とちの木」、巨大な「千年けやき」や巨大なカツラの木等が林立する、日本屈指の原生林キャンプ場の美しい木漏れ日のなかにあります。

↑「謎のイタヤカエデ」

↑「山ぶどう巻くとちの樹」

【3】登り　0．6km　下り　14.1km　「千手カツラ」

カツラ樹メモ： カツラは木が凍らないように、木に糖分を蓄積しようとします。 糖分があると、木は枯れやすくなってしまいます。枯れるとまた、その周りに新たな芽が生えて成長します。そしてまた凍らないために糖分を蓄え・・・その自然の営みが繰り返されて巨樹を形作ります。

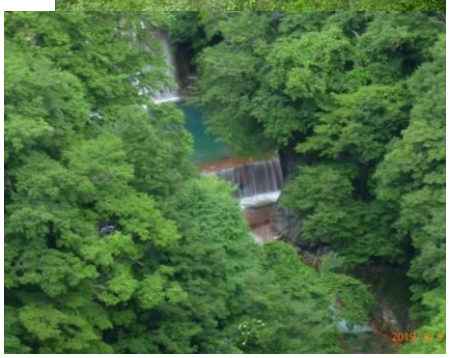
何本の枝分かれかも分からないほど見事な巨樹で、まるで千手観音のような神々しさを感じさせてくれます。真湯ゲートに入る手前の道の左右にも、何本かの似たようなカツラの巨樹に出合うことができます。

【4】登り　0．9km　下り　13．8km　「茂庭のエメラルドシャワー」

お楽しみ方ポイント: 岩手・宮城内陸地震崩落箇所「茂庭沢」碑そばの「あみだくじカエデ」付近から谷の遠方を見下ろします

「谷見の大カーブ」入口付近の巨樹「あみだくじカエデ」から見下ろして前方谷底に視線を落とすと、エメラルドグリーンに染まる水面から白い滝のようなシャワー状に流れ落ちる二つの連続した砂防堰堤がとても美しく、まるで宝石のように見えます。

↑　「あみだくじイタヤカエデ」



あみだくじのような枝分かれのカエデで、崩落により障害物が消えてしまい、風が強く当たり、枝が枯れ始めてきています。

No.	登り（真湯ゲートから）	下り（須川ゲートから）	ポイント愛称	ポイント特徴

【5】登り　1．8km　下り　12．9km　「守られカンバ」

心地よい木立を進むと、直立するブナとミズナラの木の間に、全く異色な銀色の直立する「ウダイカンバ」が、まるでボディーガードに守られる要人のような姿を道路右側に見せてくれます。

守られカンバメモ： 硬いコンクリートを想わせるような、銀色のウダイカンバですが、その皮は繊細で、民芸品の材料などにつかわれることから、心無い業者に狙われる事があります。この木も下の黒く見える部分はナイフで剥がされた傷痕で、まるで、これ以上傷を負わないようにと、ミズナラとブナが左右後ろで守りながら人間に訴えかけているようです。

【6】登り　2．3km　下り　12．3km　「一ツ石の隠れシャワー」

↑一ツ石橋の傍らにある珍しい「千鳥の木」

↑　元々は火砕流跡の沢に架かる、一ツ石橋上から左側に見える砂防堰堤の美観

一ツ石橋から左側に見える幅の広いコンクリート製砂防堰堤は、まるでシャワー状の滝のように整った流れを見せてくれますが、橋に隠れた下方では、珍しい石組み作りの砂防堰堤が、石の凹凸ならではの、滝のような綺麗な流れを見せてくれ、それぞれ二つの異なった流れの美しい景色が、心を癒してくれます。

【7】登り　2．7km　下り　11．9km　「洗心カツラのせせらぎ」

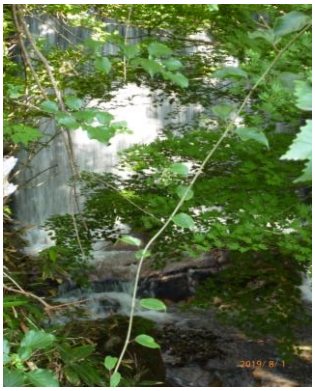
カツラメモ2： カツラは【3】「千手カツラ」メモで紹介しましたが、このカツラの老巨樹も、幾多の年月をかけ、新旧の命の営みを繰り返した姿を、その幹に力強く感じさせてくれています。また、カツラの樹は秋になると甘い香りを出し、匂いでも楽しませてくれます。

一ツ石橋から300mほど進むと、道路右斜面左側に、一度朽ち果てながら、再び新たな芽を育み、復活したような老巨樹カツラが見え、その傍らには、きれいなせせらぎが、まるでその巨樹から流れるしずくのような、神秘的景観を創っています。

【8】登り　2．8km　下り　11．8km　「平沢小滝のハーモニー」

↑　橋の上から、葉の合間に目を凝らすと、美しい連続小滝に出会えます

平沢橋の上から、木の葉の合間を垣間見ると、まず、上流に連続する小滝が流れ、まるで小滝のハーモニーを思わせるような美しい小川の風景が、橋をまたいで下流まで見ることができて、木漏れ日と水音と景観のトリプルで癒され、とても心地よく自然に身を置くことができます。

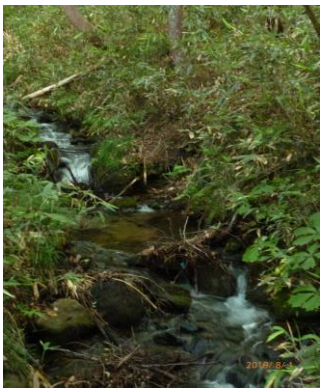


【9】登り　3．1km　下り　11．6km　「杉木立の清流」

↑　2．4km地点から3．7km「オーレン橋」過ぎ付近まで「波乗り坂」が続きます。

平沢橋を過ぎて間もなく、杉木立地帯に入り、その木立の中に、緩やかで流れのとてもきれいな小川が流れています。
殺風景な針葉樹林に味わい深いなごみを与えてくれています。

杉木立の清流メモ： ここを流れる清流は、源流が「ぶなの恵み」と同じですので、「ぶなの恵み」からの分流とも言える、流れ穏やかな、まさに「清流」です。



No.	登り（真湯ゲートから）	下り（須川ゲートから）	ポイント愛称	ポイント特徴

【10】登り　3．3km　下り　11．4km　「ぶなの恵み」

杉木立清流を過ぎ間もなく、左側に豊かな生態系に恵まれ、良好な水質・豊富な水量を誇る湧き水「平成の名水百選・須川岳の秘水」の駐車場があります。岩手宮城内陸地震後、平成13年10月にNPO法人「須川の自然を考える会」が中心になって新たに整備されました。

ぶなの恵みメモ：「ぶなの恵み」は、平成20年6月25日に環境大臣から「平成の名水百選」として正式に認定された湧き水で、無菌のために、日の光にあてないで保存すれば、1年間もきれいな水質を保てると言われています。

【11】登り　3．4km　下り　11．2km　「ウェディングツリー」

↑8月以降は白い花が枯れピンク色の名残り花と葉に覆われてしまいます

「ぶなの恵み」から200mほど進むと右側に空き地があり、その左端に、たった一本だけ、7月まで根元からてっぺんまで真っ白なツルアジサイの花に覆われ、まるで、ウエディングドレスを着飾った花嫁のように可憐なカラ松の木が鮮やかに登場します。

7月までは真っ白なツルアジサイの花に覆われます　→

カラ松メモ：【落葉松（らくようしょう）】カラ松は、針葉樹では珍しく、葉っぱが全て落ちてしまう特性を持ちます。秋には葉が金色にきれいに染まったように見えます。

【12】登り　3．5km　下り　11．1km　「寒がり樹林」

「ウエディングツリー」を過ぎるとすぐ右側に、植物に全身を覆われ、まるで、緑色の羽毛でも羽織って、寒さをしのいでいるようにも見える巨樹の林が現れます。

【13】登り　6．4km　下り　8．2km

【14】

「天かけ登山松」→
崖の向こう側

←「応援親子松」
崖の手前（道路側）

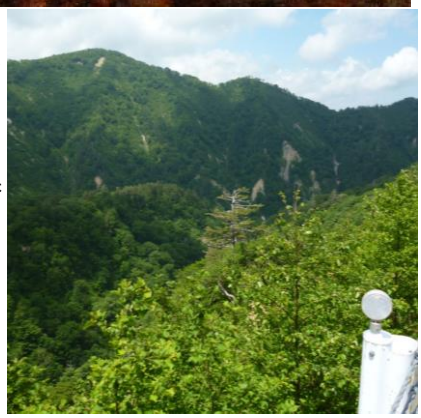
反対側の「天かけ登山松」をまるで、親子が応援しているように、二本の大きな松の木が道路右脇に立ち誇っています。

6.4km付近右側に、まるでマラソンの先頭集団がばらけるシーンを想わせ、天を目指し、かけっこをしながら登山をしているような松の木が頂上まで続く、珍しい稜線に出合えます。

【15】登り　8．0km　下り　6．6km　「奇跡の一本松」

谷間に美しく孤高の枝を誇る「奇跡の一本松」

宮城・岩手内陸地震大崩落箇所碑「烏帽子」から、14歩手前の草木の隙間と、同じ大崩落碑の60m程先から右側に、くっきりと、鮮やかに、まるで、一本だけ大崩落の難を逃れたように、まさに「奇跡の一本松」が大自然の中に悠然とそびえ立つ姿が見られます。



No.	登り（真湯ゲートから）	トリ（須川ゲートから）	ポイント愛称	ポイント特徴
【16】	8．1～8．2km	6．5km付近	「ブナスター連立林」	

スター①「抱き寄せブナ」

「奇跡の一本松」を見送り、左カーブを曲がるとすぐ、「ブナのスター連立林」が右側に現れます。一番手のスターは、まるで、そばの樹を力強く太い腕（枝）で抱き寄せようとしているように見える、愛情豊かな「抱き寄せブナ」です。

スター②「ラップ（踊り）ブナ」

二番手スターは、「抱き寄せ」のすぐお隣で、何とも言えないユニークな枝分かれを誇らしげに広げる「ラップブナ」又は「踊りブナ」です。体いっぱい喜びながら踊っているような姿をしていて、風が吹けば枝がユラユラ揺らいで、まるでラップを楽しんでいるように見えます。

【17】登り 8．9km 下り 5．7km 「鳥のアパート沢」

↑ キツツキの空けた穴

← 穴だらけのブナの樹

8.9km付近の左側に「鳥のアパート」と呼ばれるブナの沢があり、気を付けてよく見ると、キツツキの空けた穴がたくさん発見でき、まさにアパートの賑わいを想像させてくれる、とても美しい大自然のお楽しみスポットです。

晩秋を彩る沢一面の「鳥のアパートブナ林」 →

【18】登り 9．2km 下り 5．4km 「ハリギリの道しるべ」

秋のスーパースター「街道一のあで姿」

↑ 下りでは枝が左カーブを指しています

桧（ひば）沢橋手前に、悠然と一本立ちする「ハリギリ」の大木が現れ、その大きな枝が、次に向かうカーブの方向を示してくれています。 また、秋には、ハリギリの黄色とツタウルシの赤色のコントラストで、街道一と言われるほどの、美しく艶やかな紅葉姿を見せてくれます。

ハリギリメモ： **ハリ**＝木が若い頃は枝にトゲが有り、トゲを針と表現。 **ギリ**＝木を製材すると、桐（キリ）に似ていたことからキリがなまりギリ。この二つ合わせて「ハリギリ」 です。

↑ 登りでは枝が右カーブを指しています

【19】登り 9．4km 下り 5．2km 「桧（ひば）沢の気まぐれシャワー」

穏やかなシャワー状の水が、美しい情景で小川に流れます

「ハリギリの道しるべ」に促されてカーブを曲がると間もなく「桧（ひば）沢橋」に差し掛かり、左側に大きな砂防堰堤が見え、雪解けの春先や、大雨の翌日など、水量が豊富な時にとても美しい滝のようなシャワー状の流れを見せてくれます…が、天候に恵まれた時には、単なるコンクリート壁の姿しか見せてくれません。

No.	（真湯ゲートから登り）	（須川ゲートから下り）	ポイント愛称	ポイント特徴

【20】登り 9．5km 下り 5．1km 「腹ぺこブナ」

↑ 向こう側の光が透けて見えます

「桧（ひば）沢橋」を過ぎて間もなく右側に、中をくりぬいたような、まるで、腹が空いてお腹がぺったんこになったように見える、とても珍しいブナの巨樹が現れます。 よく見ると、樹の中から向こう側の明かりが見えるほど痩せていますが、しっかりと枝を育てています。

【21】登り 9．6km 下り 5．0km 「献身ブナ」

「腹ぺこブナ」を過ぎ直ぐに、奇妙な、白っぽく大きな枯木に遭遇しますが、この姿こそ、大自然の営みに永年貢献し続け、献身的に野鳥達に身を捧げてきたブナが見せる、最後の誇らしい勇姿です。

ブナの樹メモ：【ブナの生涯】よく、ブナは300年ケヤキは1,000年と言われ、その長寿が讃えられますが、①芽が吹き出し、300年も大気浄化に貢献しながら成長し②やがて枯れ、枯樹が森の幼虫の家になり③幼虫は、アカゲラはじめ野鳥たちについばまれ、枯樹は沢山の穴に傷つき④やがてその穴はキノコの楽園になり⑤キノコの賑わいが去るのを見送り、ついに力尽きて倒れます⑥倒れたブナは、最後に長い年月をかけ腐葉土と一体になりその生涯を閉じ、また新たな森を育んでいくという、大自然の壮大な生涯を歩みます。

【22】登り 9．8km 下り 4．8km 「こぶのブナさん」

「献身ブナ」から200mほど進むと、道路右側1・2m奥に、ほぼ全身が「こぶ」だらけのように見える、超珍しい大きなブナの樹に出合えます。
道路からちょっとだけ奥にあり、周りに樹木が生い茂っていて、見逃す可能性が高いので、ゆっくり走り探して下さい。

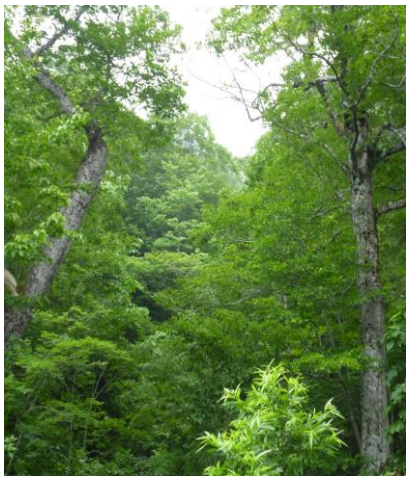
こぶ？メモ： こぶは、一説では「ナラタケ菌」等が、樹と共生して成長したものでは？と言われ、これも神秘的な自然の造形です

【23】登り 10．0km 下り 4．6km 「ミズナラのブルペン」

「直角カーブミズナラ」と「真っ直ぐブナ」

5.6月には花咲き、秋にはドングリの実が熟します

真湯ゲートから丁度10km地点左側の沢をまたぎ、ミズナラとブナの2本の巨樹が登場します。 沢に向かい左側には、上部が極端に左に曲がっている「直角カーブミズナラ」、沢向かいの右側には、樹高30mと言われる面目躍如の「真っ直ぐブナ」が大きく高く直立し、まるで、変化球投手と速球投手がブルペンで待機しているように見え、ワクワク感満載のミズナラが好む明るい沢です。



左「直角カーブミズナラ」沢を挟み、右「真っ直ぐブナ」

No.　（真湯ゲートから登り）　（須川ゲートから下り）　ポイント愛称　ポイント特徴

【24】登り　10．2km　下り　4．4km　「マジカルサワグルミ」

別名　「変身サワグルミ」「ミステリアス・サワグルミ」「双子サワグルミ」

あらためて見上げる巨樹「マジカルサワグルミ」

「須川橋」の200mほど手前の直線にさしかかると、前方カーブ右側に、①2本の同じような高さで、双子の兄弟が背中合わせに向かい合っているようでもあり、あるいは、水面や鏡に映し出された逆さ風景のようにも想える、巨大なサワグルミが見えてきます。　②ずっと近づいて根元の茂みの後ろが見えると、実は、一本の樹が枝分かれして同じように伸びたものと解ります。　③　さらに進み、真横から見ますと、全く見事に重なり合い、きれいに一本の樹に見えます。　④最後に通り過ぎますと、また「二本の背中合わせ」のような巨樹に戻っているように、まるで、マジックでも見ているように楽しめる場所です。

①遠くから2本の巨樹？（根元は茂みに隠れてます）

②近づくと一本からの枝分かれぇ⁉

サワグルミの樹メモ：　サワグルミはクルミの仲間で、サワ＝沢と、グルミ＝クルミを合わせた名前が示すように、谷川のほとりや斜面に群生し、沢筋（さわすじ）に純林（じゅんりん＝一種類の樹木だけで作られた森林）を形成することが多く、特に東北地方に多く生息し、東北を代表する樹と言われます。
ブナ帯の湿り気の多い渓流沿いによく生息し、樹高は30m近くに達し、実をつけますが食べることはできません。

ミズナラの樹メモ：「マジカルサワグルミ」手前の【22】に登場する「ミズナラ」は、別名「オオナラ」と言って、近縁の「コナラ」や「クヌギ」よりも寒冷な気候を好みますので、須川高原へのリフレッシュロード沿いにはもってこいの相性抜群樹木です。
ブナに比べて、やや明るい場所を好み、5、6月には長さ5cmほどの花を咲かせ、秋にはドングリの実が熟します。

③左側面からみると、なんと！一本にぃ⁉

⑥美しい自然満載の「須川橋」到着　←

⑤少し進むと「須川橋」が見えます　←

④通り過ぎれば、また元の二本の巨樹？

No.　（真湯ゲートから登り）　（須川ゲートから下り）　ポイント愛称　ポイント特徴

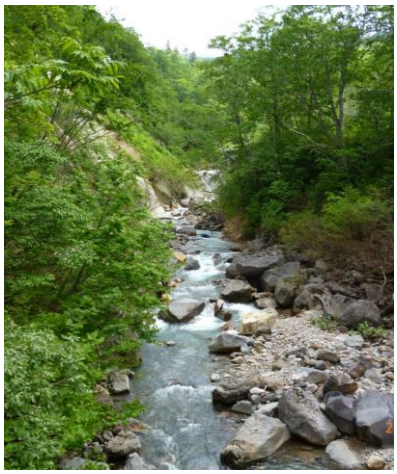
【25】登り　10．3km　下り　4．3km　「魅惑の須川橋」

①「須川橋松下の巨大一枚岩」

↑「一枚岩」ズームアップ

↑「一枚岩」露出部分と沢の岩

須川橋にさしかかりますと、左手に綺麗な沢が流れ、沢左側がまるで、崩れ落ちたように想える「不毛地帯」の斜面が見えます。 この一見崖崩れのように見える斜面全体を含む一帯が、実は土砂ではなく、大変珍しい巨大な「一枚岩」なのには一驚です。　是非、沢の大石と比べてみてはいかがですか？



「須川橋上」左方向ずっと遠方に「砂防堰堤シャワー」と左奥に「一枚岩」↑

②「須川橋の隠れ二段シャワー」

↑　「橋上」左側ずっと遠方に「砂防堰堤シャワー」

須川橋からじっと沢の奥を見つめますと、二段の砂防堰堤からシャワー状に流れ落ちるダムのような、とても美しい光景が沢伝いに橋をまたいで見られます。

↑　橋の下のせせらぎ

↑　晩秋の須川橋左側の流れ

【26】登り　11．1km　下り　3．5km　「モコモコの森」

別名「茶畑森」

真湯ゲートから丁度11．1km雪崩防止フェンス斜面のある、岩手・宮城内陸地震大崩落碑「須川6」地点の広い道路から,右側一面に「モコモコ」としか言い表せないような、まるで、お茶畑を想像させてくれるような、ここでしかなかなか見れない、高さの整った広葉樹の森が重なり合って、感動的な癒しの大パノラマを展開してくれます。

【27】登り　11．6km　下り　3．0km　「変身ブナバウアー」

←「ブナバウアー」

下り＝後　（道路左側）

後ろ（下り）側は、まるで、手を広げて観客にアピールしている「イナバウアー」の反り返りを想わせるような、前面の「大復活」とは全く異なる躍動感溢れる珍しい姿を見せてくれます。

「大復活ブナ」→

登り＝前　（道路右側）

11.6km付近右カーブ手前に、一度太く成長し、途中で朽ちかけて,再びその成長を止めたところから新たな芽吹きを育て、まるで、復活したような姿のブナが現れ、横から見ると実は反り返っていることが分かります。

No.　（真湯ゲート（登り）から）　（須川ゲート（トリ）から）　ポイント愛称　ポイント特徴

【28】12．9km付近　下り1．8km付近　「ビッグウェーブカーブ」

登り「お迎えブナ」・下り「見送りブナ」

2～3km付近の.「波乗り」とはケタ違いで、高低と傾きがあり、須川高原到着間近ならではの、連続する大カーブ＝大波（ビッグウェーブ）路を体感するという醍醐味を味わうことができます。その側らには、ブナ・ミヤマナラ・カエデなどの林が「ようこそ」と迎えてくれて、下るときには「またのお越しを」と見送ってくれます。

【29】13．8km付近　下り0．8km付近　「終わりブナ」

終わりブナメモ：「終わり」とは、ここでブナ林は終わりです、という、言わば高地ゆえの、寒さと風の強さによってここより高地は森にならない、という意味での「森林限界」を示しているように思われがちですが、ここの「終わりブナ」にはもう一つの、昔「湯守（ゆもり）」が温泉からからここ（終わりブナ付近）まで、ブナを切って薪にしていたが、ここで伐採を終わりにしたことに由来するとの説もあります。いずれにしても、何とかふもとに近い地域で止めた「ブナ伐採、杉とカラ松植林」と、「須川高原温泉ゲート」から0．8km付近で伐採を止め、貴重なブナの原生林を後世に残した先人たちの英知に、心から拍手と感謝の気持ちをかみしめながら、リフレッシュロード342をじっくり味わって走らせていただこうと思います。

歓迎（見送り）のアーチを描いているように立つ「終わりブナ」↑

【30】登り0．0km　終点　下り0．0km出発点　「須川ゲートの雲（運）海」

お楽しみ方ポイント③
さあ「須川ゲート」到着です！帰りは車の距離メーターをゼロにして、再び原生林の旅のスタートです

雨上がりの後や山の気候によって、運がいいときには、たびたび素晴らしい感動的な雲海が「須川ゲート」付近から見下ろせます。さらに運が良ければ、極まれに、足元を警戒心の少ない「アナグマ」がゆっくりと歩いて過ぎ去っていきます。後姿はとても愛らしい動物です。

初回作成2019年9月　企画制作：須川高原温泉・実虫山人（MINOMUSISANJIN）　検証：「須川の自然を考える会」熊谷隆代表理事